

(様式第4号)

上田市図書館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市図書館協議会
2 日時	令和7年6月26日(木) 午後6時30分から午後8時30分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4 出席者	中村会長、内山副会長、荒木委員、北沢委員、甲田委員、小林委員、西山委員、丸山委員
5 市側出席者	金田上田図書館長、中村上田情報ライブラリー館長、井澤上田図書館係長、赤地上田図書館係長、和田上田情報ライブラリー次長、藤森丸子図書館次長、菊地真田図書館次長
6 公開・非公開	<u>公開</u> ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年7月3日

協 議 事 項 等

1 開 会

2 会長あいさつ

・先日の新聞で、書店経営が本業ではない評論家の方が、東京の大塚駅近くに書店を開業することが紹介されていた。また札幌市の老舗旅館では「風呂屋書店」というものが開業し、好評だそうである。色々な本に出合えて、ゆったりと過ごせるのが良いのではないかな。

・同じように図書館についても、どうしたら来てもらえるかを考えるときに、少し余裕を持って、来ない人はなぜ来ないのかというところにも目を向けて考えていけたらよいと思う。

3 協議事項

(1)第二次上田市図書館基本構想 取組状況のまとめについて

○事務局から資料に基づき説明。説明の主旨は以下のとおり。

・第二次構想は、平成29年度から令和7年度までの9年間を計画年度として、基本理念に「地域の身近な情報拠点として、くらしと学びに役立つ図書館」を掲げて、各種の取組を実施してきた。

・この中では、5つの基本目標と、基本目標を達成するための27の取組項目を定めた。今回説明するのは、この基本目標と取組項目に基づく、事業の総括、評価、今後の方針などである。

・評価については、◎が達成、○が概ね達成、△が一部未達成あり、×が未達成となっている。具体的な達成基準や、数値目標を設定しているわけではないため、取組状況を総合的に勘案した上での、主観評価となる。

・評価で△や×がつき、取組が不十分なところや、今後の課題が大きい所を中心に説明したい。

・基本目標①の取組項目の2 利用者ニーズの把握と活用について、本来は利用者、あるいは利用していない方の声をお聞きし、図書館運営に生かしていく、ことが望ましい姿ではあるが、アンケートという形では実施できていない。

日々の運営の中でいただくご意見はうけたまわって、活かせるものは活かしている。また生涯学習基本構想の策定にかかるアンケート調査において、図書館についても調査している。今後はこういったものも参考にしながら、日々の業務の中で、ニーズの把握に努めていきたい。

・基本項目①取組項目4 高齢者・障がい者サービスの充実について高齢者や障がい者などで、字の小さな文庫本

などが読みにくいといったことがある。そのような方へのサービスとして、大活字本の充実や、拡大読書器の設置などを進めた。

大きな課題として、施設のバリアフリー化がある。特に上田図書館は、スロープはあるものの、エレベーターはなく、通路も狭い。上田図書館の改築検討の中で、バリアフリー化を進めていく必要がある。

・基本目標②の取組項目11・12、中央図書館機能と地域図書館機能の検討、取組項目13 各図書館のあり方の検討のうち、上田図書館の部分では、中央図書館と分館がある市町村では、分館は身近な図書館として、気軽に寄ったり、日々貸し借りやイベント、中央館等からの本の取り寄せといった役割を果たし、中央館は、バックオフィスの機能として、分館からの相談・問い合わせに応じたり、資料の長期的な保存、高度なレファレンスなどに対応する、といった役割分担がある。

上田市においては、丸子、真田図書館は機能的・規模的に分館ではなく、上田図書館が「中央館」とあるとの位置付けはされていない。また、仮に中央館だとすると、現状の上田図書館では、機能的にも人間的にも、そこまで十分とは言えない。

取組項目13の部分では、昭和45年に建築されて以降、50年以上が経過しており、上田図書館の建て替えが急務となっているが、財源の裏付けもない中で具体的な検討は進んでいない状況である。

・基本目標②の取組項目13各図書館のあり方の検討「その他の施設」では、創造館図書室の体制に課題がある。創造館図書室は、上田市の図書館職員に加え、創造館の管理団体である上田市地域振興事業団の職員も応援にきて、一体となって運営している。少ない職員体制の割に、貸出冊数は真田図書館よりも多いという状況で、人員の拡充が必要となっているが、なかなかできていないことが課題。引き続き、人事部局に要求をしていきたい。

・基本目標③ 取組項目14 視聴覚資料サービスの充実では、地域の文化と歴史に関わる各種資料の収集・保存は、図書館の重要な責務の一つであり、その中で映像や音声の資料についても、地域の歴史文化を知る貴重な資源のひとつとして、収集を図ってきた。ただ著作権処理の困難さがあり、利用者に提供することが難しいものが多い。

地域の文化や歴史に関わる視聴覚資料の提供方法については、他の図書館の状況も研究しながら、適切な方法を検討していきたい。

・基本目標⑤取組項目25 データベース利用の促進では、各図書館では様々なデータベースを保有・保管しており、利用者は申請等を行って、それを利用することができる。一部は用紙代を支払えば、印刷をすることもできる。

インターネットで多くのことが検索できる昨今、図書館に来てデータベースに触れるという需要が少なくなってきたと思われる、それに伴い、操作方法を熟知する職員も少なくなっている、という課題がある。

知識を所蔵する、知識へのアクセスを保障する、という意味では、データベースも重要な媒体の一つであるが、あり方については検討していかなければならない状況である。

・基本目標⑤取組項目26 全図書館のICタグ化については、現在、丸子図書館と真田図書館の本には、ICタグという小さなチップが貼付されているが、上田図書館と創造館分室、上田情報ライブラリー、それから武石公民館図書室の本には添付がされておらず、全市的には揃っていない。ICタグがあることによって、図書館の職員に本を渡さずに「セルフ貸出機」を操作して自分自身で貸出処理ができる、貸出処理が済んでいない本が出入口のゲートを通ると、センサーが反応し本の持ち帰り防止に役立つ、などの効果がある。

本来なら全館に整備されていることが望ましいが、全ての本にICタグを貼るのは膨大な時間と予算がかかり、またゲート設置など様々な費用もかかることから、整備は進んでいない。上田図書館の改築時期に合わせてICタグ化を検討したい。

・以上、未達成の取組項目について、取組内容と課題などを説明した。そのほかの項目については、必ずしも十分とはいえない部分もあるが、達成あるいは概ね達成と評価できるのではないかと考えている。

・評価できる点の1点目として、取組項目15、16、17、21あたりが該当する、図書資料の充実、貴重資料の整理・公開といった、資料関係の充実があげられる。上田市の図書館全体として資料収集方針を定めた上で、各館の特色に応じて、重点的に収集する分野を決めて、収集を進めてきた。

また貴重資料に関しては、江戸時代に書かれた古文書をデジタル化して、そこに注釈などをつけてインターネット上で閲覧できるようにする事業に取り組んだ。

さらに図書館内の資料の充実に加えて、市町村と県による協働電子図書館・デジとしよ信州への参加についても、利用者の選択肢を広げたという意味で、一定の成果があったものといえる。

・評価できる点の2点目として、取組項目13での、各館での取り組み、取組項目18、19あたりが該当するが、各図書館で、それぞれ活動いただいているボランティア団体等と連携して、各種のイベントや行事により図書館を盛り上げていただいたこと、があげられる。

具体的には、読み聞かせや、本の修理、古文書の読解、各館の行事における連携など、非常に多くの分野で協力をいただいた。

引き続き、これらの団体との連携を深めて、図書館運営に取り組んでまいりたい。

○委員からの質疑は以下のとおり。

委員

・利用者ニーズの把握はとても大切なことだが、「実際に使ってみて、どう感じたか」「図書館にどのようなことを求めているか」といったことは、アンケートではわかりにくい。

・利用者などに集まってもらって、どんなことを感じているか、どのようなことを求めているか、など実際に意見を出してもらう場が必要ではないか。

・色んな意見が出てきて大変だと思うが、こんな本がほしいとか、利用しない人はなぜ利用しないのかなど、本当の図書館ニーズの把握につながる。

・現在では、本よりもネットで検索した方が早いし、読みたい本は自分で買うという方もいると思うが、図書館にこれだけの本が揃っているのに利用しないのはもったいない。ニーズの掘り起こしをお願いしたい。

事務局

・要望としてうけたまわり、検討していきたい。

委員

・音訳図書について、蔵書はたくさんあると思うが、どのように周知しているか。資料・目録の配布などは行っているのか。

事務局

・音訳図書を利用するには会員登録が必要で、会員の方には毎年、テープ図書のリストをお送りしている。

・ただ会員以外への周知は弱いところがある。ボランティア団体の中には、社会福祉団体と交流を持っているところもあり、そのようなつながりで周知を図っているが、一般の方へは届きにくい状況で、もう一工夫が必要と考えている。録音図書を利用する方は、活字での利用が難しい方であり、周知が難しい面がある。

委員

- ・IC タグ化について、エコールの全体的な運用や、相互貸借の際など、他館とのやりとりに影響があるのか。
- ・上田図書館の建て替えについては、どのようにして決定されるのか。

事務局

- ・丸子図書館、真田図書館の図書への IC タグ貼付は、開館に合わせて作業を行った経過がある。上田図書館などでも IC タグ化したいと考えているが、貼付作業には相当の人員・費用がかかり、また作業をしている間は、資料が使用できない。仮に上田図書館を建て替えるとすれば、準備期間が相当あるため、その期間に IC タグ化をするのが、最もタイミングが良いものと考えている。
- ・上田図書館の建て替えについては、いつ、どこで、どれくらいのものを建てるか、市の中で、図書館も含めて検討していく。

委員

- ・上田図書館が中央図書館機能を備えることが期待されているが、現状はそうっていない。これまでの説明を聞き、各館がある程度の独立性を維持して運営されている点に、意外性を感じた。上田図書館の建設の話が定まっていない中で、まず本館と分館の位置付けをしてしまうという考えは、効率が悪いという理解でよいか。

事務局

- ・丸子・真田図書館は、もともと、それぞれの地域で要望が強かった図書館を、市町村合併を機に整備した、という経過がある。「分館」というと、独自の権限はなく、予約受付や中央館とのやり取りが中心となるイメージだが、丸子・真田図書館は、それぞれ一定規模の予算を持ち、人員もある程度配置されている。また条例上も、本館・分館の取り決めがなく、独立して運営する館として運営が始まっている。
- ・中央館・分館体制の検討を進めつつも、結論には至っていない。

委員

- ・二次構想策定時には、中央図書館機能の必要性が掲げられたが、9年間の取組を経て、社会情勢の変化もあり、三次構想では、必ずしも必要なものとは言えないのではないか。中央館の必要性を、見直す方向もありえるのか。

事務局

- ・三次構想を策定する中で、本館・分館のあり方を検討していきたい。

委員

- ・上田市の図書館は、資料の収集をよくやっていると思う。今後は、資料をどのように保管して活用していくか。図書館とサントミュージゼ、資料館、公文書館とのすみ分けをどのように考えているか。

事務局

- ・資料収集に関して、美術館については、資料の性質上、館独自で収集しているものが多い。以前は、美術館で余剰が生じた資料を図書館で受け入れたこともある。
- ・公文書館は設置されて5年が経過しているが、公文書館ができる前は、旧町村の公文書の一部を上田図書館で保存していた。現在は公文書館に移管しており、図書館では書籍のみを保存している。

委員

- ・上田図書館の建て替えに関して、予算が限られる中で、学校整備や国体開催に伴うテニスコート整備が優先され、図書館と体育館はなかなか進んでいかない状況がある。そのような中でも、今後10年を見通し、どのような道筋を描くか。

事務局

- ・図書館建て替えには国等からの補助金がない。財源が非常に厳しく、費用面での折り合いがなかなかつかない現実がある。ただし、このままではいけないという認識は、市の行政内部でも共有している。
- ・現在、市内に老朽化した施設が多数あり、市街地にも多くある。これらの施設を単独で更新していくのは難しいため、集約できるものは集約して効率化を図る必要がある。

(2)第三次上田市図書館基本構想について

○事務局から資料に基づき説明。主旨は以下のとおり。

- ・第三次構想における、上田市が目指す図書館の基本理念の案として、「みんなが利用しやすく、役にたち、楽しくて、上田らしい図書館を目ざして」を提示したい。
- ・基本理念のキーワードとして、「利用しやすい」は、貸出密度の低さ、利用登録者の伸び悩みといった課題への対応を示したもの、「役にたつ」は、二次構想でうたわれた「暮らしと学びに役立つ」を引き継ぐもの、「上田らしい」は、上田という地域に根ざした図書館、上田市の図書館の歴史を引き継ぐもの、「楽しい」は、図書館は、生涯学習、社会教育を目的とした施設であり、学校教育の学びとは異なる、幅広い学びの捉え方が求められること、また、公共図書館は、持続可能なコミュニティのための基盤であり、一人で気軽に利用できる施設でこうした図書館を実現していくため、図書館が「楽しい」という価値を大切にしていきたいというものである。
- ・また、基本理念に基づいた3つの基本方針(方向性)として、(1)利用しやすい図書館、(2)役にたつ図書館、(3)上田らしい図書館を掲げ、それぞれについて方向性を示したい。
- ・基本方針に基づいた具体的な取り組みとしては、まず、(1)利用しやすい図書館については、図書館の利用方法の、市民へのわかりやすい情報発信、サービス網の維持発展、資料の収集・整理・保存の適切な実施、資料の配架・提供・貸出の適切な実施など掲げた。
- ・次に、(2)役にたつ図書館については、気軽な相談やレファレンスサービス 子ども向けサービス、子育て支援サービス、青少年サービス、バリアフリーサービス、多文化サービスなどを掲げた。

・次に、(3) 上田らしい図書館については、地域の郷土資料の収集・整理・保存・活用や、上田の図書館が所蔵する貴重資料のデジタルアーカイブ化、地域の学校図書館・教育機関・行政機関との連携、市民協働の図書館運営などを掲げた。

○委員からの質疑は以下のとおり

委員

・基本的には良い理念と思うが、案の前半部分は、例えば「みんなが知る自由を楽しめる」という風にまとめた方が、すっきりしてよいのではないかと。
・「利用しやすさ」という部分では、エコールのネットワークがあったり、並列的に図書館があったり、というところが、上田らしい図書館の概念にあてはまると思う。

事務局

・基本方針の「(1) 利用しやすい図書館」に、サービス網の維持発展の記載がある。上田市の面積や人口規模からみて、今の図書館の配置、サービス網は十分か、ということは以前から言われている。ただ、財政的制約の中で、十分な整備ができないことも現実的である。
・その中でも、もう少し何かできないか、中央館機能の検討も含め、並列に近い今の体制を、どう機能的に運用していくかを議論していきたい。

委員

・基本理念のキーワードは良いと思うが、「上田らしい」という言葉に違和感がある。
・上田らしいとは、具体的に何が上田らしいのか。「上田らしさ」として具体的に表現される言葉を、基本理念に盛り込むべきで、「上田らしい」という言葉をわざわざ入れる必要はない。

事務局

・「上田らしい」の別の言い方として、「地域に根差した」「地域に身近な」といった表現も、候補として考えていた。そのような言葉はどうか。

委員

・「地域」という言葉がどうかというより、上田らしさは何かについて、もっと具体的であってよい。
・「利用しやすい」「役に立ち」という言葉からは、それがどういうことか、ある程度連想ができる。「上田らしいとは何か」と聞かれたときに、すぐ説明でできるか。
・基本理念は、今後の図書館運営の根幹となるものであり、熟慮してきちんと固めておく必要がある。

事務局

・ご意見を踏まえ、事務局で検討したい。

委員

・この構想策定について、今後の進み具合を、どのように見込んでいるか。

事務局

・次回、事務局案を提示する予定である。基本理念についても、検討して次回に提示したい。

(3)その他

・特になし

4 その他

・次回開催日について説明(7月17日開催)

5 閉 会